



## 「時代の潮流を捉えよう！」

校長 遠藤 克則

数年前にこんな話を聞いたことがあります。中国からの留学生に「何が目的で日本語や英語を学んでいるの」と尋ねたところ、「中国の歴史や思想を海外の人々に知らしめるためだ」と答えたそうです。また、韓国からの留学生は「日本人には負ける気がしない」と言い放ったそうです。このような威勢のよい留学生がどれほどいるのか分かりませんが、東アジア諸国の勢い（欲望）の一端を感じさせるエピソードだと思います。実際、各国の経済発展は目覚しく、日本のお家芸である「ものづくり技術」においても、その優位性に陰りが見られると指摘されています。私も数年前、中国やモンゴル等に出向いたとき、日本の高度経済成長期を上回る勢いを肌で感じ、漠然とした不安感と危機感に襲われたことを覚えています。帰国後、程なくして日本の国内総生産（GDP）は世界第3位に下がり、その成長率は今も鈍化したままです。

一方、現在、日本は少子高齢社会を迎え、労働力人口の減少が社会問題化しています。それを補うかのように外国人技能実習生が増え、日常的に目にするようになってきました。さらに、先月公表された国の経済財政に関する方針（いわゆる骨太の方針）においては、「新たな在留資格を創設し、外国人材受入れの取組を更に進めるほか、外国人が円滑に共生できるような社会の実現に向けて取り組む」としています。また、地方創生・地域活性化には外国人の訪日旅行（インバウンド）に頼らざるを得ない状況も見られます。国内の主要観光地を歩くと、聞こえてくるのは外国語の会話ばかり、ここはいったいどこの国なのか、といったところです。

生徒の皆さんは、このような社会をどのように受け止めているのでしょうか。そんなことは知らない、では済まされない現実が目の前に広がっています。グローバル化は確実に進行しており、その対応が急がれているのです。難しいのは、いったい何を学び、何を準備すればよいのか、その具体が見え難いところだと思います。しかし少なくとも、知識基盤社会の上に成り立つグローバル化であることから、まずは日ごろの学業に励み、自己の能力を最大限に引き伸ばすとともに、常に世界の経済・社会の動向に目を向ける心掛けが必要だと考えられます。そして、機会があれば、感性の高い高校生のうちに積極的に海外に出向き、異国の風を体で感じてくるのが望ましいでしょう。

現在、グローバル化の波に乗って台頭した海外の新興企業が世界の産業構造（パワーバランス）を大きく変えつつあり、日本には「もっと強い科学技術」「もっと強い生産技術」が求められています。その流れに衰えは見られません。生徒の皆さんには、この国際化推進室通信を一助として、グローバルな視点で時代の潮流を捉える姿勢を身に付けて欲しいと願っています

ついに、7月10日、タイのタムラン洞窟から、地元サッカーチームの少年13人全員が無事救出された。7月2日、行方不明になっていた少年たちを9日振りに発見したのは、災害経験の豊富なイギリス人ダイバーたちだった。視界がほとんどない泥水の中にもぐり発見した。当初、救出には3ヶ月以上かかると予想され、世界中から支援が届いていた。日本からも JICA（独立行政法人国際協力機構）が、排水に詳しい専門家を派遣。アメリカやヨーロッパなどからも多くの専門家が集まっていた。救出には、国内外からの約90名のダイバーたちが関わった。毎日、子供たちの家族のために炊き出しが行われ、普段は静かな田舎町が大変な騒ぎになっていたようだ。グローバル化により、地球規模で知識や経験を共有することが可能となった。洞窟の周辺では多言語が飛び交っていたが、少年たちへの思いは共有されていたに違いない。

今年度も、12人の生徒が海外研修に出かける。海外に興味を持っている生徒は、来年度挑戦してみてもはどうだろうか。

【夏休み 海外研修実施内容】

<p>✚ 平成30年度高校生海外研修(1名参加)</p>		モンゴル	7/27~8/1
7/28	7/29	7/30	7/31
<p>列車でドルノゴビ県へ 高校生と交流 文化体験 遊牧生活体験 列車でウランハートルへ 高校生と交流</p>			
<p>✚ 目的</p> <p>モンゴル国(ドルノゴビ県)での異文化体験と国際交流の機会を通して、国際感覚と世界的視野を備えた人材の育成を図るとともに、両県の友好関係を深め、国際理解教育の推進に役立てる。</p>			
<p>✚ 平成30年度高校生海外インターンシップ研修(1名参加)</p>		タイ	8/21~8/24
8/22			
<p>Jatco Thailand Co.Ltd.で就労体験 市内見学</p>			
<p>✚ 目的</p> <p>高校生が海外に進出している県内企業の海外事業所等を訪れ、交流・視察や就労体験等を実施することで、海外マーケットでの県内企業の魅力や競争力、貢献度などを肌で感じ、将来的に県内企業や関連産業で活躍する意識を高める。</p>			
<p>✚ 平成30年度科学技術高校海外研修(10名参加)</p>		シンガポール	8/15~8/19
8/16	8/17	8/18	
企業訪問・市内研修	高校訪問・市内研修・ホームステイ	ホームステイ	
<p>✚ 目的</p> <p>国際化の進展に対応できる技術者・科学者を養成するという本校の教育理念を踏まえ、治安が良く先端的な技術開発が進む多民族国家シンガポールにおいて海外研修を行う。</p>			



Buddhist Temple Khamaryn



Jatco Thailand Co.Ltd.



シンガポール

## Hash さん、ありがとう！

Hash さんは、2016年8月から2年間、主に1年生の授業を担当してくださいましたが、この度、イギリスに帰国することになりました。Hash さんとの授業を楽しみにしていた生徒も多いと思います。Hash さんにとっても、みなさんとの出会いは忘れられないものとなるでしょう。旅行が好きで、訪れた国は10カ国以上になるそうです。旅の写真と共に、みなさんへのメッセージをいただきました。



I've really enjoyed my time here in Kagiko. I had the chance to teach a lot of great students and it has made my time in Japan unforgettable. I will really miss Shizuoka and everyone here when I return to England because Shizuoka has become my second home. Before I came, I watched videos on TV about Japanese culture to learn more about Japan. But by coming to Japan I found out that I can only learn the culture by being here and understanding the language. That's why I recommend to any student that likes the culture of a country to visit that country and try to learn their language.

私は、ここ科学技術高校で本当に楽しい時を過ごしました。多くの素晴らしい生徒たちを教える機会が得られたことで、日本で過ごした時間は忘れがたいものになりました。静岡は私の第二の故郷になりましたので、イギリスに帰る時には、静岡とこの学校のみなさんとの別れが本当に辛いものとなるでしょう。来日する前に、日本のことをもっと知りたくて、日本文化についてのビデオをいくつも見ました。しかし、日本に来たことで、日本の文化は、日本を訪れ、そして日本語を理解して初めてわかるものだと気付きました。ですから、ある国の文化が好きだと思っている生徒には、その国を訪れ、その国の言語を学んでみることをお勧めします。